

令和6年 発表会

担当：佐瀬・山菅

1. 基本設定

(ア) 対象者

全園児と保護者

(保護者には、祖父母・兄弟・知人等も含む。)

(イ) 日時

R7年2月8日(土)

開演 9:15 終了予定 12:00

仕込み R7年2月5日(水) 午後

リハーサル R7年2月6日(水) 午前～R7年2月7日(金) 午後

(ウ) 場所

足利市民プラザ文化ホール

(エ) 位置付け

① みんなで発達に見合った創造的な表現活動を保育の中に取り入れ楽しむ。

(より豊で美しい物を保育士と子どもとで工夫し、創造する。)

(運動会は体育関係、造形展は絵画・工作等)

② 観客が感動する。

・ 感動とは、子どもが成長したとを感じるもの。

・ 成長ってすごい事なんだなと感動できるもの。

③ 演じた人が成長する。

・ 取り組み前後で違いが感じられる。

・ 劇を通してそれ以前に見えなかったものが見えてくる。

それが成長。

(オ) ねらい

① 《全体にとって》

1. 発想・感性・表現を豊かにしたい

(発達に見合った創造的な表現活動が出来る環境を作る)

② 《子どもにとって》

1. 一人ひとりの、「心と力」が合わさる事で完成していく事を知る場の一つとする。

2. 自分達の持つ力を発揮し楽しむ。

3. 自分達、また見ている人たちと楽しみ・喜びを共感する。

③ 《保護者にとって》

1. 自分の子だけでなく、他の子の成長も感じる。
2. 見て、聞いて、楽しむ。

④ 《職員にとって》

1. 子どもたちとやり遂げた（当日だけでなく、練習段階の保育も含め、ねらいや準備した経過）満足や自信を共感し喜び合う。
2. 職員もこの一年の子どもの成長を喜ぶ。
3. 保育として子どもに何を感じ取って欲しいかを考える。

(カ) 目的

① 子どもにとって

1. その場は緊張でいっぱいかもしれないが、終了後に満足感や、達成感を感じてほしい。
(やった事に対しての反応に対する嬉しさ楽しさを含む。)

② 保護者にとって

1. 自分子どもだけでなく、他のクラスの様子を見ることで、今までの成長を思い返したりこれからの子どもの成長を楽しみにする。また、自分子どもだけでなく、他の子も応援する。(みんなで子育てをしよう。)

(キ) 方向性

1. 発表会を通して自分一人ではなく、子ども・保育士みんなで「心と力」を合わせることで、とてもいい事・いい物が出来るといふ喜び、自信を持ち、それが次へのステップになる。

(ク) 職員の心掛け・取り組み

1. 子どもたちの発達にあわせて、当日までの計画・環境作りを考え、保育士・子どもがお互いに楽しく、そして、持っている力を十分に発揮できるように心掛ける。
2. 日頃の遊びの中で、想像力につながる遊びや、ごっこ遊びから演じる楽しさを感じ、劇ごっこへとつながる環境を作る。
3. 1・2を段階的にクラスでインスタにアップしていく。

2. 昨年（前回）との相違

(ア) 新たな試み

- ① インスタを通して準備段階から情報を小出しにしていく。
- ② ペーパーレス化。保護者連絡・プログラム等もメールで配信
- ③ プログラムの構成

各演目をクラスの年齢の状態や、構成内容によって順番を決める。担当だけでなく、各クラスの担当とも話をし、無理なく演目へ準備ができるようにしていきたい。

今年度は、どのパターンにより構成を考える必要がある。

④ 乳児部台本会議について

乳児部の見せ方、よりいいものが見せれるよう、台本会議を行う。職員が日頃から遊びを通して子どもたちと関わっている姿を見せて、子ども達も遊びの延長のような環境で演目が出来ると良い

⑤ 平台について

使用する際には、人数・使用用途・内容を伝え安全に使用できる状態にしていく。

(ウ) 教訓・来年度の参考より

1. 荷物の運搬について

① 荷物の運搬は合理化する。

- ・ 担当・葉子・音響の車（乗りきれぬなら）
- ・ 帰りは通園バス・ミニキャブ・軽トラを使用。

（帰りの運転手の手配を事前しておく）

また、音響仕込みと一緒に大道具も運搬・仕込みを行い、翌日の職員の動きにゆとりが出たので、今年度も同じ形で行う。

② 各楽屋について

- ・ 事前に楽屋の形態を把握し、各職員で安全に使えるように話し合う。中で破損したりのないように注意する。
- ・ 楽屋で待っている間、快適に過ごせるよう、環境を整える。（保育内容も）
- ・ 各楽屋内で連絡を密にしておく。（連絡係りを配置する）
- ・ 連絡係りの役割・内容を検討し明確にしておく。

③ 演目入退場について

- ・ 入退場は、入り口・出口一緒でよい。その方がスムーズ。

④ 劇について

- ・ 子どもがセリフを言えない時はマイクを通して言ってあげることで良いことを共通にしておく。
- ・ 子どもも職員もがマイクの位置を意識して構成すると良い。
- ・ 子どもの特性を捉えて劇の構成を作る。
- ・ りんご→ナレーションでストーリーをもっていくような構成を作る。

- ・ 歌（曲）とセリフが一緒にならないほうが良い。
（歌入りの曲がかかっててのセリフは聴こえづらい）
- ・ とまと組は練習の段階から声の出し方・方向を意識して行くとうい。

3. 当日の計画

(ア) 日程

9：15 開場
12：00 終了予定
（各クラス演目は、別紙資料）

(イ) 分担

昨年を参考にし、合唱の並び方を考え、素早く並べるようにする。
合奏関係・楽器撤去指示→落合
大道具配置指示→葉子

(ウ) 行程

(エ) 手順

(オ) 他

- ・ 保護者あて文書
配布日程は、年間計画に記入
 - ・ 発表会参加申し込み
 - ・ 発表会諸連絡
諸連絡・楽屋案内・プラザ配置図受け入れ用・プログラム・
演目内容について・座席表・プログラム
 - ・ 次年度プラザ予約
今年度発表会担当者

4. 事前準備

- ・ 年間計画に記入

5. 片付け

- ・ 衣装・大道具：発表会 終了後

6. 総括方法

- ・ 発表会当日片付け終了後、各部に分かれて
- ・ 発表会当日片付け終了後～14時まで 担当と事務室職員で。

7. 合奏について

- ①長島先生にベースの部分を弾いてもらう。